

平成27年度事業報告

法人移行して初めての理事改選があり、会長の交代や8名の新理事が就任され動きだした新体制ですが、8月に理事の勉強会を開催し、次年度の事業活動計画を協議する部長会を開催するなどして、理事会全体で平成27年度の事業に取り組んできました。

平成27年度の事業で特徴的だったのが、研修では、新人研修の受講希望者が例年になく多数あり、教育部理事や担当講師の協力を得て、定員の60名を大幅に超す84名の受講者で開講したことです。総務部関係では、代表世話人会からの提案があり、広報プロジェクトを急ぎよ立ち上げ、協会のパンフレットの見直し等を行いました。また、東京都の事業への協力として、退院支援人材育成研修に理事や協会員を講師として派遣しました。

この他にも、社会問題対策部では、小児医療問題専門小委員会や「MSWによるセクシュアル・マイノリティへの支援」に関する勉強会など新しい専門小委員会の立ち上げ、昨年度より引き続けている「ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い」の実施や震災支援対策委員会の活動の継続がありました。8年間継続している東京都の受託事業である「医療と福祉110番」の相談件数が、64件と例年になく多くあり、実行委員の方の広報が実を結んだものと思います。

一方でプログラム検討委員会のアンケート調査や会員の入退会の状況から、会員が協会活動に何を求めているのか、日々の仕事の中で抱えている問題はどのようなもので、それに応えるには、協会として何が出来るのかを問うた1年でもありました。

平成27年度も都内の医療関連各職種が集う医療ネットワーク会議や、東京都医師会が、東京都より委託された東京都在宅療養推進基盤整備事業の多職種連携連絡会への参加など、各種団体や行政と連携・協働などの活動も行いました。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施しました。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めました。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めました。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進しました。
4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出しました。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めました。
6. 講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めました。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めました。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めました。
9. 東日本大震災で被害を受けた地域との交流を行いました。
10. 広く都民に対する公益活動として公開講座を開催しました。
11. タイムカードの導入を図り、労働契約書を交わし、協会事務所の機能強化を図りました。

I. 管理運営報告

- 1) 公益法人の要件整備に努めた。
 1. 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
 2. 協会事務所の事務局体制を週4日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
 3. 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた。

- 2) 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
 1. 広く都民に対しての公開講座を開催した。
 2. 江戸川区医療福祉相談会を開催した。
 3. 西東京市医療福祉相談会を開催した。
 4. 葛飾区医療福祉相談会を開催した。
 5. 江戸川区神経難病検診を実施した。
 6. 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに「医療福祉の相談コーナー」を設置し、相談会を開催した。

- 3) 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。

- 4) 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
 1. 東京都難病相談・支援センター主催の「難病医療相談会」に参加協力した。

- 5) ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。

- 6) 広報活動
 1. ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。
 2. 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。

- 7) 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
 1. 地域巡回医療福祉相談事業
 2. 電話相談事業（医療と福祉110番）
 3. 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
 4. グループスーパービジョン（4講座）

- 8) 求人について「ホームページ」に随時情報を掲載した。

- 9) 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。

10) 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

11) 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。

12) 会員の異動状況（平成27年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合 計
入会者数	95	24	0	119
退会者数	71	27	0	98
現会員数	737	127	9	873

*2016年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/8	世話人会	4/24	世話人会
5/22	世話人会	5/17	地域巡回相談会
6/25	勉強会・交流会 「在宅ケア・在宅医療について」 講師 鈴木道明氏（小平すずきクリニック院長） 森田香奈恵氏（小平医師会訪問看護ステーション所長）	5/29	交流会
		6/15	世話人会
		7/17	世話人会
		8/ 6	世話人会納涼祭
		9/18	世話人会
10/7	世話人会	10/23	勉強会「エンパワーメントの原則とアプローチを体感する」 講師：川村隆彦氏
11/5	勉強会・世話人会 「介護保険制度改定と今後の国の動き方を考える」講師 栗岡清英 氏（株式会社ケアフリー）、勉強会後世話人会	11/25	多摩支所勉強会
11/12	地域巡回相談会「いちよう祭り」 小平市多摩済生ケアセンター		
12/7	世話人会	12/3	世話人会
1/22	世話人会	1/15	世話人会
1/23	新年交流会		
2/8	世話人会	2/26	勉強会「臨床心理士の視点から考える面接技法」 講師：淵上奈緒子氏
3/15	世話人会 (来年度へむけた世話人引き継ぎ)	3/10	世話人会
3/25	2ブロックとの合同情報交換会	3/25	1ブロックとの合同情報交換会
世話人・運営委員	◎来山剛士（東大和病院） ○井上直子（東京白十字病院） ▲村上京子（小平北口クリニック） 原田剛（新山手病院） 栗田直（新山手病院） 高橋奈央 （小平中央リハビリテーション病院） 真々田美穂（南街クリニック） 深瀬真希（西東京中央総合病院）		◎武井純一（老健ぐらんぱぐらんま） ○室井健太郎（上川病院） ▲浅古美絵（東海大学八王子病院） ▲高橋潤子（北原国際病院） 金丸恵子（老健エンジェルコート） 作本美千子（立川相互病院） 富士川泰裕（康明会病院） 宮岡彩実（日の出ヶ丘病院）

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

表2. ブロック活動状況

第3ブロック		第4ブロック
4/10	世話人会	4/1 新旧世話人引き継ぎ会 4/24 世話人会
5/15	世話人会	5/24 地域巡回相談会 「みなと健康まつり」(芝公園) 参加 5/27 世話人会
6/12	世話人会	6/22 研修会、情報交換会 「生活・療養の場としてのサ高住」
7/ 9	情報交換会	7/31 勉強会
7/17	世話人会	「東京合同法律事務所勉強会」
8/27	世話人会	8/21 世話人会
9/14	世話人会	
10/ 9	世話人会	10/7 世話人会
10/30	研修会「認知症疾患センターの概要と役割について」	
11/13	世話人会	11/7 研修会・情報交換会
11/18	地域巡回相談会 「いたばし健康まつり 2015」	「認知症における医療連携」
11/19	〃	
12/10	世話人会	
1/21	世話人会	1/27 世話人会
		2/27 研修会・情報交換会 「退院支援におけるMSWの役割」
3/25	世話人会	3/23 新旧世話人引き継ぎ会
世話人・運営委員	<ul style="list-style-type: none"> ◎小林直毅 (慈誠会徳丸リハビリテーション病院) ○小菅英樹 (慈生会若木原病院) ▲常陸奈々恵 (滝野川はくちょう地域包括支援センター) ▲高山佳代子 (東京北医療センター) 高橋夏子 (望星赤羽クリニック) 藤田千尋 (都立大塚病院) 今村遼子 (都立駒込病院) 中辻康博 (豊島区在宅医療相談窓口) 瀬尾真奈美 (王子生協病院) 濱野麻祐子 (イムス板橋リハビリテーション病院) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎高山亮 (コンフォガーデンクリニック) ○渋谷奈緒美 (佐藤病院) 谷口由子 (虎の門病院) 玉川ひとみ (東京女子医科大学病院) ▲竹野恵 (順天堂大付属順天堂医院) ▲國分ゆう子 (東京医科歯科大病院) ▲鈴木豊 (東京医科大学病院) ▲高橋昌也 (三井記念病院)

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

表3. ブロック活動状況

第5ブロック		第6ブロック
4/8	世話人会	4/ 30 世話人会
5/29	世話人会	
6/ 5	研修会 「介護保険制度改定について」	
6/ 18	世話人会	
		7/14 世話人会 7/28 勉強会「生活保護について」
8/14	世話人会	
8/21	情報交換会	
		9/15 世話人会
10/1	世話人会	
10/8	研修会 「精神科を含めた訪問診療について」	
11/12	世話人会	11/5 見学会「松沢病院」世話人会
11/18	見学会「東京さくら病院」	
11/29	地域巡回相談会 「葛飾区ボランティアまつり」	
		12/10 世話人会
1/22	情報交換会	
2/10	世話人会	2/6 地域巡回相談会 世話人会
3/15	世話人会	3/9 研修会「ソーシャルワーカーの Identity」
3/18	講演会「MSWの仕事に生きて」 グループワーク 「みんなで語ろう MSW」	
世話人・運営委員	◎上田美佐江（がん研有明病院） ○笹本千壽子（東京東病院） ○加藤大介（東京東病院） ▲森 尚子（賛育会病院） ▲金子 充（さくらライフ錦糸クリニク） 須藤純子（京葉病院） 沓澤郁子（水野記念病院）	◎平林朋子（東芝病院） ○江口美奈子（NTT 東日本関東病院） ○高澤亮子（NTT 東日本関東病院） ▲小杉知子（都立松沢病院） ▲中野真優（都立松沢病院） ▲平川貴美子（井上病院） ▲進藤僚太（浴風会病院） 岡田尚子（三宿病院） 川路裕子（三宿病院） 皆川直也（水野診療所）

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

表4. ブロック活動状況

第7ブロック	
4/ 6	世話人会
5/27	世話人会
6/12	名刺交換会
6/17	世話人会
7/29	世話人会
9/18	世話人会
11/20	見学会「多摩川病院」
12/ 5	地域巡回相談会「調布市福祉まつり」 世話人会
1/14	新年会
3/17	勉強会「労災について」
世話人・運営委員	◎村下佳秀 ○近藤久美子（府中恵仁会病院） ▲江田房信（老健ふれあいの里） 大串悠太郎（三鷹リハケアセンター） 芹田啓子（調布東山病院） 深澤佳奈（多摩川病院） 堀尾彩乃（都立多摩総合医療センター） 宮田守康（三鷹中央病院）

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

II. 各事業報告

【定款第1号事業】

1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

1. 地域巡回医療福祉相談

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施した。

日程	開催場所	相談件数	特別企画
1 11/15 (日)	多摩済生ケアセンター	1	多摩済生ケアセンター いちようまつり (アンケート35名)
2 5/17 (日)	八王子市富士森公園	14	八王子市福祉まつり (アンケート43名)
3 11/18 (水)、 11/19 (木)	板橋区立グリーンホール	22	いたばし健康まつり (アンケート86名)
4 5/24 (日)	港区芝公園	1	みなと健康まつり (アンケート30名)
5 11/29 (日)	ウェルピア葛飾	33	葛飾ボランティアまつり・ウェルピアまつり
6 2/6 (土)	品川区総合区民会館 きゅりあん	2	MSWによる病院機能説明会、相談会 (アンケート15名)
7 12/5 (土)	調布市駅前広場(調布市社協)	9	調布市福祉まつり (アンケート26名)

2. 電話相談 (医療と福祉110番)

平成28年2月22日～2月27日までの6日間、常設の電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	17	15	0	32
病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題	8	18	0	26
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	4	4	0	8
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	9	10	0	19
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	11	11	0	22
看護や療養・生活指導をめぐる問題	5	4	0	9
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	0	1	0	1
その他医療福祉に関する相談	32	9	0	41
合 計	86	72	0	158

3. 公開講座【自主事業】

平成27年10月31日(土)、三茶しゃれなあどホール(世田谷区民会館別館)にて「いつまでも、おいしく楽しく食べるために一地域で広がる食の支援を知る」のテーマで開催した。講師は、古川慎二氏(むすび葉クリニックMSW)、古田良恵氏(つくばセントラル病院摂食・嚥下障害看護認定看護師)、西村一弘氏(東京都栄養士会会長)を招き、講演及びやわらか食づくりの実演を通して、都民や医療・福祉関係者等とディスカッションを行い、医療福祉の啓発活動を行った。

4. 難病検診への参加協力【受託事業】

(1) 東京都難病相談・支援センターについて

同センターは、難病患者さんの日常生活における相談を受け支援を行い、また地域交流や活動を行う拠点として、患者さんの療養を支えるために設けられている。

(2) 難病無料医療相談会について

難病無料医療相談会は東京都から委託を受け東京都難病相談・支援センターが実施している。平成27年度においても、例年通り8回の開催となった。

相談申し込みは、完全予約制となっており、定員の上限は各回30名で、難病相談・支援センターが受け付けている。相談会の内容は、専門医が一件20分を目安に個別に来所者(患者・家族)から医療に関わらず生活面等、様々な相談に応じている。

(3) ソーシャルワーカーの役割について

当協会では、難病無料医療相談会に毎回2~3名のMSWを派遣し、専門医と面接前の事前面談を担当している。平成27年度においてもMSWは、医師との面談の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面談を有効に使えるように関わった。また、生活に関わる相談の内容には個別に相談に応じた。

- ① 日時 : 平成27年7月26日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター(渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : リウマチ
協力MSW : 市浦華奈子(東邦大学医療センター大橋病院)、
井上孝義(信愛病院)計2名
来談者 : 11名

- ② 日時 : 平成27年8月2日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター(渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 消化器系
協力MSW : 中村杏奈(帝京大学医学部附属病院)、井上孝義(信愛病院)
計2名
来談者 : 10名

- ③ 日時 : 平成27年9月27日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター(渋谷区広尾5-7-1)

- 対象疾患 : 膠原病
協力MSW : 永田真佑美 (杏林大学医学部附属病院)、
坂口かおり (東京警察病院)、井上孝義 (信愛病院) 計3名
来談者 : 44名
- ④ 日時 : 平成27年10月25日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター (渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 血液系
協力MSW : 安仁屋衣子 (厚生中央病院)、井上孝義 (信愛病院) 計2名
来談者 : 21名
- ⑤ 日時 : 平成27年11月15日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター (渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 消化器系
協力MSW : 堀川真知子 (東京通信病院)、井上孝義 (信愛病院) 計2名
来談者 : 21名
- ⑥ 日時 : 平成27年12月13日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター (渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 視覚系
協力MSW : 野村洋平 (東部地域病院)、井上孝義 (信愛病院) 計2名
来談者 : 12名
- ⑦ 日時 : 平成28年1月24日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター (渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 神経系
協力MSW : 荒井有希子 (順天堂大学医学部附属順天堂医院)、
吉野彩香 (東邦大学医療センター大森病院)、
井上孝義 (信愛病院) 計3名
来談者 : 39名
- ⑧ 日時 : 平成28年3月27日(日) 11:00~16:30
場所 : 東京都難病・相談支援センター (渋谷区広尾5-7-1)
対象疾患 : 神経系
協力MSW : 山我香子 (玉川病院)、中村由佳 (自宅会員)、
井上孝義 (信愛病院) 計3名
来談者 : 22名

5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、清瀬市の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場とし

て、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。相談会のより一層の充実を図り運営事務手続きを整備し、各ブロックでの活動の支援を行った。

6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

平成27年度は以下の日程・会場で、計3回の相談会活動を行った。

- ① 6月28日（日）江戸川区医師会会館
- ② 10月25日（日）東部健康サポートセンター
- ③ 11月28日（土）江戸川区介護フェア相談コーナー

これらの活動を通じて、MSWと行政、医療機関との連携が強化され、地域福祉活動に寄与している。（相談件数は順に14件、16件、35件）

7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

平成28年3月5日（土）、葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと相談会活動を行なった。相談会を通じて、地域との関係性は深まりつつある。（相談件数20件）

8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

7月4日（土）、栄町包括支援センター職員を対象に、「栄町包括エリア支え合い懇談会」にて施設・病院選びをテーマに地域巡回相談会を開催した。同月25日（土）には、「地域包括支援センター職員へのヒアリング」を市役所内会議にて行い、地域課題抽出を行い今後の運営に役立つものとなった。（相談件数は順に24件、33件）

9. 清瀬市医療福祉相談会【自主事業】

6月13日（土）、下宿地域市民センターにて市役所・市社会福祉協議会・市医師会の後援のもと、保健・医療・福祉サービスの情報提供や個別相談を行った。過疎化が進んでいる地域を選定した。（相談件数3件）

10. 江戸川区神経難病検診【自主事業】

江戸川区・区医師会主催、(社)東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、10月4日（日）江戸川区医師会館にて開催され、MSW2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

11. その他活動【自主事業】

当事者団体との関係構築を図り、以下の活動を行った。

(1) 難病・慢性疾患全国フォーラム2015

11月7日（土）、浅草橋ヒューリックホールにてフォーラムが開催され、当協会は参加・共同団体としての登録及び会員への参加の呼びかけを行った。当日理事1名が参加した。

12. 震災支援活動【自主事業】

平成23年3月11日の東日本大震災の発生から5年を経過した現在も、被災された方々において健康問題や生活の場、孤立化等医療や福祉に絡む様々な問題が生じている。

そのような現状を踏まえ、「決して忘れないこと、伝えてゆくこと、続けてゆくこと」という理念の基、「東京都の医療ソーシャルワーカー団体として出来ること」を検討し、平成27年度は以下における活動を行ってきた。

(1) 委員会

当協会では平成23年5月2日に、震災支援対策委員会を立ち上げて以来、定期的に活動計画の打ち合わせを重ねてきた。平成27年度は計9回開催している。

委員会の構成メンバーは、三役、各部の代表、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設立することにより、継続的な活動を図ることが可能となっている。

(2) 他団体との連携

現地訪問と各県のMSW協会との交流・情報交換として、平成28年3月12日（土）～13日（日）に福島県医療ソーシャルワーカー協会との交流会と南相馬市訪問を行った。

現地に出向くことに関して、被災の状況を深く理解し、MSW同士の交流・連携を深め、現状を常に外部に伝えるための重要な機会となっている。

また、他団体との連携として、東京都社会福祉協議会広域支援在り方プロジェクトや、広域支援ネットワーク、在宅療養患者災害支援事業など、様々な施策や団体に関与している。

(3) 被災された方々への支援活動

平成28年2月22日（月）～27日（土）にかけて、当協会では例年行っている「電話110番」と連動し、東京都民のみならず、都内に避難生活を送られている方々も対象に、電話相談を行った。昨年度に引き続き、東京都避難者支援課を通じて、都内に避難された方々に広報を行っている。

また、従来から協会活動として行っている巡回相談会・独自相談会の広報において、各ブロックの協力のもと、「東日本大震災により避難された方々の相談も受けます」の一文を載せるなどの形もとっている。

避難された方々への支援の一環として、「広域避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」等、交流会への参加を行った。

「被災者生活支援等施策の推進に関わる基本的な方針（改正案）」に対するパブリックコメントを協会として提出している。

また、講演会において、支援の一環として相馬市仮設住宅住民作成の「相馬あくりるたわし」の販売を行ってきた。

(4) 会員及び外部への広報活動ならびに会員全体の協力体制の強化

災害支援ニュース「つたえる」を定期的に発行することにより、会員や外部に向けて、震災支援の継続的な必要性のアピールを行った。

9月4日（金）に「放射線と健康被害について学ぶ学習会」を開催。平野敏夫先生（ひらの亀戸ひまわり診療所理事長）を講師として招き、レクチャー後には会員同士によるディスカッションを行った。

教育・啓蒙活動として、第63回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会・第35

回日本医療社会事業学会（京都府）にて、当協会の1年間の活動について発表した。また、日本QOL学会や、他団体における勉強会においても、当協会の活動について報告を行った。また、別冊「つたえる」の第2号出版に向けての作成活動を行っている。

（5）災害対策

東京都及び関東圏に大震災が生じた場合を想定し、災害時における当協会が果たすべき対応、緊急時の連絡と組織管理、物品の準備などを検討し、「非常災害時対応マニュアル」を「災害時・連絡シート」「災害時・受入依頼シート」と共に会員名簿に添付、会員に配布した。また、災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。

[定款第2号事業]

2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

1. 講座【自主事業】

平成27年度は「地域包括ケアについて考える」を年間テーマとして3回の夜間講座を開催した。

第1回は、平成27年9月10日に渋谷区の東京ウィメンズプラザにおいて、「地域包括ケアシステムの基本的概念とその実践」と題して、石巻市立病院開成仮診療所所長の長純一先生に現場の目から見て理解した地域包括ケアシステムと、その現状や実践についてご講演いただいた。

受講者は39名で、「大きな視点を得ることが出来ました。MSWを育てる立場で現在の医療を教えて下さる方のお話しを聞いて良い機会と思います」、「都市部と地方の地域性、在宅医療の考え方、違い、その中で石巻の実践と地域包括ケアシステムをどう捉えるか、大変興味深かった」、「地域を知っている、生活モデルでみられる医師の重要性とMSW（社会福祉士）に期待されていること、自分の立ち位置をみつめていきたいと思った」等の感想が寄せられた。

第2回は、平成27年12月2日に渋谷区の家クラブ会館ホールにおいて、「地域包括ケア病棟の実際と課題」と題して、実際に地域包括ケア病棟を運営している病院のソーシャルワーカーの方より、各病院の機能や地域特性、地域から求められていること等を発表いただいた。

受講者からは「対話力と交渉力がMSWの力である！とてもインパクトのある話が聞けてよかったです。地域に開かれた交渉力を持ってMSWが活躍できる場でもあるととても思いました」、「地域包括ケア病棟をはじめたことによるメリット・デメリットを学ぶことができて良かった。地域性によって変わる部分もあると感じ、地域の様々な機関との連携が重要であると感じた」等の感想があり、受講者も59名と多く盛況な講座であった。

第3回は、平成28年3月2日に渋谷区の家クラブ会館ホールにおいて、「地域包括ケアシステムにおける在宅医療・介護連携推進事業の取り組みについて」と題して、東京都北区健康福祉部介護医療連携推進・介護予防担当課長小宮山恵美先生にご講演いただいた。講演のテーマとしては、在宅医療を推進する行政の立場からみた地域包括ケアシステム、北区の取り組み、医療ソーシャルワーカーへの期待や課題、であった。受講者は35名であった。

受講者からは「行政が主導し各機関をまとめていること、それを実施していることを学んだ。一方自分が働く地域がどのような取り組みをしているのか断片的にしか理解できておらず、総じての理解、施策理解が重要だと思った」、「地域包括ケアシステムとはよく聞くが具体的にどのような流れで何をどう進めて良いのか知らなかった。今後実際に在宅で生活する高齢者の方が増えていく中で連携の方法をざっくりとではあるが想像することができた」等の感想が聞かれた。

この夜間講座は、公益社団法人日本医療社会福祉協会の認定医療社会福祉士申請のためのポイント対象の講座である。案内方法を工夫したが、回によっては参加者が少数であり、案内方法や参加者を増やす方法を検討しなければならない。

2. 研修会 ※講師 敬称略

(1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

平成27年度も通年コース（2時間20回）と集中コース（2時間6回、7時間2回）の2つのコースを設定した。会場は、通年コース・集中コース共に家庭クラブ会館を中心に、数回飯田橋レインボービルを利用して開催した。

受講生募集方法に関して郵送での申込み形式をとったが、申込み者が非常に多い現状であった。

今年度は通年コースが40名定員のところ申込み多数のため49名と定員超過で開講した。数名の受講者が開催5回目ぐらいで、退職等の理由で欠席が目立つようになったが今年度の修了証は受講生全体の8割、皆勤賞は2割弱の方に発行した。集中コースは20名定員のところ35名であり、通年と同じく定員超過となった。修了証は受講生全体の6割、皆勤賞は5割の方に発行した。

なお、例年同様、前年度の受講生に協力員として参加を依頼した。

また、今年度も受講生に講義内容の振り返りとして毎回「気づきと感想」を提出してもらい、今後の研修内容の検討材料として活用し、来年度の研修に反映させていきたい。

- 【講師】 武内 昶篤 （東京都医療社会事業協会副会長）
樋口 昌彦 （至誠会第二病院）
大沼 扶美江（東京都立広尾病院）
平岡 久仁子（帝京平成大学）
山下 律子（ゆいまーる障害年金社労士の会）
柴田 礼子（順天堂大学医学部附属練馬病院）
小嶋 章吾（国際医療福祉大学）
小松 美智子（武蔵野大学）

(2) グループスーパービジョン【受託事業】

①Aグループ

9名の受講生が参加し、毎月第4水曜日に東京芸術劇場にて開催された。初回のオリエンテーションと各受講生の事例発表、振り返りを含めて計11回開催した。

受講生からは、「客観的にみた視点を教えてもらい、自分だけでの振り返りでは、想像できないようなことに気づくことが出来、今後の支援の糧になった」、「出会った人々と仲間になることが自分の支えとなり、業務に打ち込むことができた」、「アドバイスをいただいたことで、考え方の幅や視野が広がった」と参加しての学びについて感想が寄せられた。

- 【講師】 柏木 昭（聖学院大学総合研究所スーパービジョンセンター）

②Bグループ

9名の受講生が参加し、毎月第4木曜日に家庭クラブ会館にて開催された。初回のオリエンテーションと各受講生の事例発表、講師からの文献を用いた講義を含め計10回開催した。受講生の経験年数は1～3年であった。受講生からは、「それぞれのケー

スを基に講師から理論的に教えてもらい、自分が行った支援を考えなおし深める時間を得られた」、「経験年数が近い SW との交流ができて、とても有意義だった」とのコメントを得た。

【講師】 石井三智子 （明治学院大学）

③ C グループ

毎月第2または第3金曜日に受講生9名で家庭クラブ会館にて開催された。先生は「生活アセスメント用紙」を使用して、グループスーパービジョンを進めた、受講生からは「事例検討を通じて自分の日々の患者さんに対する支援のふりかえりができ、スーパーバイザーからの助言によって、そのケースを多面的にとらえることができました」

また「普段交流できない他のMSWの方と交流ができ心強く感じました」、「支援結果を向きに受け止め直すことが出来た」等のコメントがあった。

【講師】 朝比奈 朋子（東京成徳大学）

④ D グループ

9名の受講生が参加し、6～8月は第4水曜日、9～3月は第3金曜日に家庭クラブ会館にて開催された。

毎回、担当受講生より提出された事例について、受講生皆による対応方法の検討や振り返り、講師からの視点の投げかけや理論的助言を加える形で、支持的な関わりを中心としたグループスーパービジョンが展開された。受講生からは、「新たな気づきになると共に共感をすることにより、自身の自信へとつながった」、「(支援に対して)これで良かったという安心を得ることができ心が穏やかになった」等のコメントが聞かれ、アンケートからも高い満足度が確認できた。

【講師】 川村 隆彦 （神奈川県立保健福祉大学）

(3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

10名の受講生が参加し、家庭クラブ会館にて、全8回開講した。受講生からは、「個人レベルでの課題検討をしていると自分だけの考察になってしまうが、GSVを通じて、他所の意見や考え、アドバイスをいただいたことにより視野が広がり、折々見解が変わった。自信を貰うことが出来た。業務の中でケースをピックアップし振り返りが詳細にせきっていなかったが、ケースや業務をふりかえる機会となり自己研鑽にもつながった。」等の声が聞かれた。

【講師】 福山 和女（ルーテル学院大学）

(4) MSWのための労災講座 【自主事業】連続講座

11名の受講生が参加し、土曜日の午後に、月1回、5回連続の講義で、主に「ひらの亀戸ひまわり診療所」の会議室にて開催された。

各回、各分野の専門家である講師から貴重な講義を受講する機会となった。「仕事と病気の関係は深いこと、普段業務の中で何う患者さんの職歴から病気と関連があるののではないかと感じ、関連付けることができること、それを聴き取ることができることもソーシャルワーカーの専門性であることを学んだ。日々の業務に活かしていきたい」との感想が寄せられた。

- 第1回 MSWと労災職業病
- 第2回 病名から労災職業病を見つける
- 第3回 労災申請の実務と実際
- 第4回 アスベスト関連疾患と救済
- 第5回 精神疾患と労災認定

【講師】 高山 俊雄（ひまわり診療所MSW）
平野 敏夫（ひまわり診療所理事長）
飯田 勝泰（東京労働安全衛生センター事務局長）
名取 雄司（中皮腫・じん肺・アスベストセンター所長）
内田 正子（東京労働安全衛生センター事務局員）

（6）コーチング講座【自主事業】

土曜日の午後に年5回、受講生9名で、開催された。受講生からは、「受講していく中で、部下や後輩との接し方に変化を感じられた。」「自分のコミュニケーションパターンがわかった」、「これからも継続して講義を受けたい」等のコメントが聞かれた。

【講師】 伊藤 三恵（オフィスDMe）

（7）新人研修フォローアップ講座【自主事業】新規事業

新規事業として、新人研修受講者で3年～5年目の経験者を対象に実施した。日曜日の全日、年2回、受講生5名で開催された。

受講生からは、「もやもやしていた部分が解消され、今までの自分自身の言動を少なからず自信にかえることが出来た」、「事例検討の進め方や、どのように伝えていくと良いか基本的なことから教えてもらい非常に貴重な機会となった」等のコメントが聞かれた。少人数かつ経験年数が近いメンバーであったので、満足度が高い研修であったとの感想が多かった。

【講師】 小松 美智子（武蔵野大学）
田上 明（東京都清瀬喜望園）

3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関。全会員対象にアンケート調査と分析を行うとともに、中堅者向けの集いを実施し今後の研修の内容を協議した。

【委員】 伊藤 正子（法政大学）

内田 美沙子 (田無病院)
大宮 謙一 (荏原病院)
小林 裕一郎 (内藤病院)
田上 明 (東京都清瀬喜望園)
原田 剛 (新山手病院)
藤井 かおる (京葉病院)
馬見塚 統子 (東大和市高齢者ほっと支援センターなんがい)

[定款第3号事業]

医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

平成27年度は、次年度に新たな委員会の発足をめざし3つの活動を追加した。

(1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

平成28年2月6日(土)、中野サンプラザにて第3回集い「いつでも、どこでも、自分らしく寄り添う～ソーシャルワークを繋ごう～」をテーマに開催した。働く世代の女性の事例を用いてワールドカフェ方式で、患者の置かれている状況や思い、各機関でMSWとしてできること等について討論した。参加者20名(スタッフ除く)。

(2) MSWによるセクシュアル・マイノリティへの支援

10月14日(水)、福祉財団ビルにてセクシュアル・マイノリティに関する知識を得るための勉強会を開催した。参加者9名。

(3) 小児医療問題専門小委員会

東京都小児等在宅医療検討部会に合わせ、同委員と関心のあるMSWで立ち上げた。11月19日(木)、平成28年2月17日(水)、福祉財団ビルにて開催した。

(4) 医療事故調査制度

平成27年10月制度の運用開始にあたり、部内で情報収集を行った。

[定款第4号事業]

4) 刊行物の発行に関する事業

1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行（各号1000部）

会員向けニュースレター「東京MSW」(334号(8月)、335号(11月)、336号(2月))を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』64号の発行

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』64号(3月)を発行した。

3. 出版部会の開催

年間計画、各刊行物発行のための企画・検討部会を、7月10日、12月14日、3月15日の3回開催した。